

緑化だより

No.163 令和 2年 8月号



ネジバナ

- 季節の花(ハマユウ)
- 昆虫の話
(森の葬儀屋・シデムシ)
- 小さな世界こけ
(コケが観察できる場所(8-2))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

8月の土、日、祝日は午後5時まで開園します。



ryokka 緑化センターの本

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

ハマユウ

「み熊野の浦の浜木綿 百重(ももへ)なす 心は思へど ただに逢はぬかも」

柿本人麻呂 万葉集 巻4-496

これを訳しますと

(熊野の海岸のハマユウの葉が幾重にも重なっているように、幾重にも幾重にもあなたのことを深く思っていますが、直接に会えないことが残念でなりません)

飛鳥時代(690年) 持統天皇が紀伊に行幸され、一行が熊野(三重県牟婁(むろ)郡)の地にさしかかるとき、柿本人麻呂が詠った歌です。当時、人麻呂は朝廷の美しい女官に恋をしていました。

ハマユウ(浜木綿)はヒガンバナ科の常緑多年草で、暖かい地方の海岸砂浜に生えています。根ぎわから出ている葉は厚くて光沢があります。太い茎の先に白い花が数十個咲き、夜になるとジャスミンに近い香りを放ちます。花被片(がく片と花弁の区別がないもの)は細長く反り返ります。種子は大きくてコルク質に包まれており、水分を通さず軽いので、海水の波に漂いながら未知の砂浜に漂着して発芽します。関東以西の太平洋沿岸の黒潮の洗う砂浜に自生しています。



ハマユウの群生(山口県角島)

名前の由来は、浜の木綿(ゆふ)からきています。木綿はコウゾなどの樹皮を細かく裂いて作った木の繊維で、御幣としてサカキに垂らし、神事に使う白い布のことです。これがハマユウの花に似ていることからつけられました。また葉の付け根が多肉質で葉が円筒状のバウムクーヘン状に重なり、それが木綿(ゆふ)を巻いたように見えることから「百重なす」と読まれました。この葉の下部は偽茎と言われ、アルカロイドを多く含み**有毒植物**です。別名オモト(万年青)の葉に似ているので、ハマオモト(浜万年青)とも言われます。



インドハマユウ

広島県では戦前、宮島の砂浜に自生していたそうですが、現在では見られません。また、福山市仙酔島のハマヒルガオ群落に3本ありましたが自生であるかは疑問だと言われています。山口県下関市豊北町角島(つのしま)のハマユウ群生地は日本海側の西北限に近く有名です。ハマユウは温暖な地方では、観賞用に庭や道端や公園に植栽されています。また園芸品種に、白いユリの花のようなインドハマユウ(アフリカハマユウ)があります。(上村)

昆虫の話

森の葬儀屋・シデムシ

真夏は生ものが腐りやすい季節です。それは野外で死んだ動物の死体も同様です。山では事故や病気で命を落とした動物の死体をしばしば目にします。それらの死体はしばらく

すると腐敗し、強烈な屍臭を放つようになります。しかし、死体がいつまでも転がっていることはありません。いったい誰が死体を片付けてしまうのでしょうか？

動物が死ぬと最初にハエ、続いてタヌキやキツネなどの動物が集まってきます。小さな動物の死体であれば彼らに食べられて無くなってしまいますが、大きい動物の死体や腐敗の進んだ死体ではそうはいきません。そこで登場するのがシデムシのなかまです。

シデムシは固い鞘羽と鋭い顎、優れた嗅覚を持つ甲虫です。呉淞々宇山周辺ではオレンジ色のおしゃれな模様をしたモンシデムシ、全身黒塗りのクロシデムシ、オレンジ色の胸をもつベッコウシデムシ、後脚が太いオオモモブトシデムシを見ることができます。いずれの種も大食漢で、死肉をもりもりと食べてしまいます。また、その鋭い顎で皮や腱等の他の虫が齧る(かじる)ことのできない組織を難なく切断し、死体を細かく分解してしまいます。さらに、分解した死体をせっせと地中へ埋めてしまいます。このように死体を地中に埋めてしまう様から、埋葬虫と書いてシデムシと呼ばれるようになりました。

シデムシの働きによって、死体は地上から一掃されてしまいました。しかし、地中ではまだ死体の分解が進行しています。シデムシは地中へ埋めた死体で肉団子をつくり、そこに卵を産み付け、幼虫を育てます。種類によっては親が付き添って子供の世話をします。野外で死んだ多くの動物は、このような過程を経て土へ帰ってゆくのです。もし山で動物の死体を見かけたら、どこかにシデムシが来ていないか、ぜひ探してみてください。(市森林公園 こんちゅう館 逸見)



魚に集まったシデムシ
左からヤマトモンシデムシ、
ベッコウシデムシ、
オオモモブトシデムシ

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(8-2)

前回に続き、今回も出会いの広場で観察しましょう。

スロープの壁の上に着生しているのは、セン類のホソバギボウシゴケです。

日当たりのよい、乾いた岩やコンクリートの上に生育しています。石灰質を好むため、コンクリート壁でよく見られます。

令和元年11月号で紹介しましたケギボウシゴケの葉先は、透明な尖(せん)が白っぽい毛のように伸びていますが、ホソバギボウシゴケの尖(せん)は目立ちません。孢子体は12月頃からつけ始め、1月には雌苞葉(しほうよう)に包まれた、赤くて艶のある蒴が顔を出します。3月には孢子を放出し、役目を終えた蒴が残ります。この蒴の形を橋の欄干に見られる“擬宝珠(ギボウシ)”に見立てたのが名前の由来です。(山根)



コンクリート壁上のホソバギボウシゴケ



葉先の尖は目立たない

研修会のご案内

- 8月2日(日)『夏休み自由工作塾』
木の実や枝を使って自由に工作
※ 自由参加、随時受付、材料費1作品100円
10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師:緑化センター ボランティア
ふれあい湧
- 8月22日(土)『ダイヤモンドを育てよう』
お話の後、鉢植えに挑戦しましょう
※ 要予約(先着20組)、材料費1,000円
10:00～12:00 学習室 集合
講師:森林インストラクター
長井 稔
- 8月23日(日)『夏休み自由工作塾』
木の実や枝を使って自由に工作
※ 自由参加、随時受付、材料費1作品100円
10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師:緑化センター ボランティア
ふれあい湧
- 8月26日(水)『夏休み自由工作塾』
木の実や枝を使って自由に工作
※ 自由参加、随時受付、材料費1作品100円
10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師:緑化センター ボランティア
ふれあい湧
- 8月30日(日)『夏休み自由工作塾』
木の実や枝を使って自由に工作
※ 自由参加、随時受付、材料費1作品100円
10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師:緑化センター ボランティア
ふれあい湧

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、
参加者はマスク着用、密集・密接を避けるようご注意ください。

☆お知らせ・ご案内☆♪

展示会

場所:レストハウス
(ガラスケース展示)

・トール&デコラティブ ペインティング展

～ 8月23日(日)

(パネル展示)

・愛鳥週間原画コンクール
入賞作品展

～ 8月4日(火)

・日本画作品展

8月16日(日)～9月5日(土)



「トール&デコラティブ ペインティング」より



昨年の「日本画作品展」より

～ 森林公園 イベント情報 ～

- 8月9日(日)『納涼落語』 13:00～14:00
芝生広場 休憩所 森の中で落語を聴いて涼しくなろう
協力:葡萄亭わいん,ぽてと(高2),こざくら(中2)
- 8月12日(水),19日(水)『夏休みクラフト教室』 9:00～14:00
管理センターデッキ 竹トンボやウグイス笛などのクラフトづくりに挑戦しよう
定員:当日先着100人
参加費:100円～500円/セット
- 8月15日(土)『スタンプラリー』 9:30～14:00
芝生広場 特設会場
公園内のチェックポイントを巡りながらスタンプを集めて景品をゲットしよう
定員:当日先着200人